

9月18日 自治会等宛送付文書一覧

A

No	件 名	種 類	掲示期限	担 当 課
1	2027年ごみ分別カレンダー等の送付について(お知らせ)	会 長 宛	—	収 集 事 業 課 TEL 078-918-5780
2	「これからの協働のまちづくりを考える」タウンミーティング開催について(ご案内)	会 長 宛	—	コミュニティ・生涯学習課 TEL 078-918-5004
3	「明石のまちづくり」第19号の配付について	会 長 宛	—	コミュニティ・生涯学習課 TEL 078-918-5004
4	KOUSEIKAN フェス 2026 開催案内について	ポスター 片面掲示	次月到着日	人 権 推 進 課 TEL 078-918-5024
5	「明石六士会合同『法の日』 無料相談会」	ポスター 片面掲示	次月到着日	総 務 課 TEL 078-918-5005
6	民間保育所・認定こども園就職フェアのご案内	ポスター 片面掲示	次月到着日	保育士総合サポートセンター TEL 078-918-5268
7	「明石のまちづくり」第19号の配付について	回 覧	—	コミュニティ・生涯学習課 TEL 078-918-5004

※今月の送付文書(回覧)には押印欄がないため、回覧用の用紙を添付させていただきます。
必要に応じてご利用ください。



https://97.182.46.viewer.kantonapp.com/public/kaiton2023a



明石市連合まちづくり協議会

まちづくり ゆめづくり

■発行／明石市連合まちづくり協議会

■編集／広報部会

■連絡先／明石市コミュニティ・生涯学習課

■TEL／(078)918-5004



つながるまち協、様々な「連携」のカタチ



各校区では、社会が変化する中で、地域の団体も高齢化や人手不足等の課題解決に取り組んでいます。そんな中、まち協も同じような課題を持つ他団体と連携しながら地域の発展に取り組む校区が増えています。

そこで、今回は「子ども」や「企業」等、他団体と連携しながらお互いのノウハウを生かし、相乗効果を生み出している校区の事例を紹介します。



中崎まちづくりの会の取り組み

ここでは地域の特色に合わせたまちづくりについて、広報部会が取材した内容を紹介します。



明石市東南部に位置する中崎校区は、海に面した自然豊かで、歴史・伝統・文化のある地域です。

中崎まちづくりの会（以下、まち会）は、2014年の発足当初から、個人参加の若手を中心に人を集め積極的に活動しており、現在も、部会長に若手役員を登用する等組織の活性化に取り組んでいます。

2023年度からは、第2期まちづくり計画書策定に際して地域住民の意見を聴取し、まち会が目指す姿をまとめた結果、地域の団体との連携・協働に力を入れて活動しています。

地域が変化する中で、どんな活動が必要か話し合いながら既存の活動の在り方の工夫や新しい活動に取り組むまち会の皆さんにお話を伺いました。

一地域の団体と「連携・協働」する中崎まち会一



「地域の団体はまち会の『下部組織』ではなく『連携・協働を目指す』存在」と話す西川会長。この方針はまちづくり計画書にも記載されており、この考えに基づいてまち会では地域の

団体との様々な連携の取り組みを行っています。

一例として、校区内の団体がお互いの活動を知り、悩みや困りごとを共有することで新たな協力や活動が生まれることを狙い、2024年から「ボランティア懇談会」を開催しています。今年度からは、より各団体の活動が見えやすくなるようなしくみを検討中です。

また、小学校運動会が午前だけになったため午後からも設営したテント等の備品をそのまま借りてPTAが主催している住民運動会「みんなの運動会」に、まち会としても広報や資材の手配等のお手伝いをしています。これも、地域の団体からの声に応じてまち会が連携している、住民から好評な行事です。



▲「ボランティア懇談会」
校区内の団体の活動についてや困りごとの情報交換の場に。



▲「みんなの運動会」
PTA主催の住民運動会をまち会が
お手伝い。

一まちの音楽イベントを目指してあかねカレッジ登録団体とコラボ「音楽フェスティバル in なかさき」一

今年度には、あかねカレッジ登録団体とまち会がコラボして、勤労福祉会館で音楽フェスティバルを開催しました。これは、元々あかねカレッジに登録している音楽団体が大蔵海岸の野外音楽堂で行っていたイベントでしたが、まち会とのコラボにより、室内開催で、地域からの一般参加も可能となりました。

「音楽を通して地域全体を盛り上げたい」と語るあかねカレッジ登録団体の平山さん。この想いはまち会とも共通しており、平山さんからの声かけによりコラボの実現に至りました。



▲「音楽フェスティバル in なかさき」
あかねカレッジに登録している音楽団体
16団体と地域からの一般参加2団体で
朝から夕方まで続く大規模なイベントに。

「今後はもっと地域からの出演者が増え、子どもや保護者世代も巻き込んでまちの音楽イベントへ発展させていきたい」と生田副会長。少年合唱団への声かけ等を通して親や祖父母も含めた世代を超えた交流の場へ発展させるため、開催日をこれまでの平日から土日に変更する等、あかねカレッジ登録団体と一緒に検討を重ねています。

一さらなる連携の拡大・地域課題の解決に向けて一

まち会立ち上げ当初から活動している生田副会長は、「現在のまち会は発足当初に自治会やPTA等の団体を取り込まなかったため、次第に高齢化と人手不足が進んでいる。同様の悩みを抱えている地域の団体と連携することで課題解決につながれば」と語ります。

地域の課題が多様化する中、「今までやってきた活動が難しくなってきた」、「もっといろんな活動をやってみたい」等の地域の声に対して、幹事長の片山さんは、「まち会としてできることを見つけていきたい」と語り、さらなる連携の拡大に向けて取り組んでいます。

一地域の相談役・人や団体をつなぐ役割を目指して一

「まち会単体ではできることに限界があるが、地域の人や団体のやりたいことや困りごとと一緒に取り組み、サポートするような存在にまち会がなれたら」と話すまち会の皆さん。「そのためには、地域の声が集まる場にしていきたいが、地域には声の上げ方も分からない方も多い。今後は地域の声をまち会に届けるしくみを作っていきたい」との展望をお伺いしました。

地域の団体の架け橋となり、連携しながら課題を解決し、さらなる発展に向けて取り組む中崎校区のこれからが楽しみです。

子どもたちが、まちの魅力発信にチャレンジ 『ワンドフル江井島特別号』『参観日の物産展』

江井島小6年生たちが総合的な学習で「歴史ある町『江井島』をもっと素敵にしよう」と、地域PR動画の作成、地元特産品を集めた物産展などを企画。実践にあたっては、まち協が各分野で活躍する地元住民や事業者をつなぎ企画をサポートしました。

物産展グループは子ども達がJAや飲食店に直接仕入れ交渉、参観日で江井島の特産品を実際に販売しました。新聞グループは、まち協の広報紙「ワンドフル江井島」の特別号を1年かけて制作。見出しやレイアウトを児童たちが考えるにあたって、まち協に縁のあった出版社の方を招き、広報紙の作り方講座を開催。この講座をきっかけに、子どもたちの視点が変わり、「もっと伝わる広報紙にしよう」と記事やレイアウトを工夫し、江井島自慢の歴史や海岸、祭り、酒造り等、江井島の魅力がたくさん詰まった広報紙に仕上がっていったそうです。

Point

- 子どもの「やってみたい」実現に向けて、まち協が地元の専門家をコーディネート
- 実践は子どもたちのチャレンジ機会、なるべく手は出さずに見守る



▲参観日に開催した「物産展」

児童が制作した
ワンドフル江井島特別号
『江井島の魅力』▼



漁協や校区内の企業と連携して地域課題の解決を考える まち全体が商店街「明石新浜 軒先マルシェ」

Point

- 興味関心でまちづくりに関われる「まち友」。
大観校区では関心のある個人に加え、校区内の団体や企業とも積極的に連携している
- 地域課題の「空き家問題」の解決のため空き家を出店場所として活用

まちづくり計画書策定をきっかけに、「浜手エリアには買い物できる店がなくて買い物困難者が多いなあ」や、「地域内の空き家はお店として活用できないだろうか」という意見があがったそうです。そこで開催されたのがまち全体を商店街と見立てた「明石新浜 軒先マルシェ」。

明石浦漁協や地域内の企業と連携しながらイベントを企画し、より多くのお店がまちの中に並ぶように、家の軒先や空き家、駐車場など、出店場所を貸してくれる人とマルシェに出店したい人をマッチング。

当日は、地域内のカフェやお店がコラボしたり、地域住民が得意なことを出店したりして、浜手エリアに多くのお店が並びました。また、公民館にミニスーパーを出店したり、空き家の相談ブースが出店するなど、今回の軒先マルシェをきっかけに、浜手エリアにおける今後の買い物ニーズの調査や、空き家活用の可能性の検討につながっているそうです。

マルシェ当日の岬町西部町内
会館の出店の様子▼



▲昨年度の軒先
マルシェのチラシ

まちナビAKASHI

2次元コードから、まちナビAKASHI校区別地域情報ページをご覧ください。また、このページから過去の「明石のまちづくり」のアーカイブを読むことができます。是非ご覧ください。



二見北商店会と連携して子どもに職業体験を 「キタザニア」「二見北納涼夏まつり」

「二見北商店会と連携して「キタザニア」という子どもの職業体験事業を実施している二見北校区。学校の教室を店舗に見立てて、二見北商店会にあるお店ならではの体験出展が並びます。

「もっと地元の商店が賑わえば」という思いから、子どもを対象にまち協と連携してイベントを実施。商店会とまち協で実行委員会を立ち上げ、今では十年以上続く地域のイベントとなりました。

また、子どもたちが仕事を体験した後には「二見北納涼夏まつり」で使える金券がお給料としてもらえるようになっており、働いたお金で遊ぶという体験も併せて出来るようになっていきます。



▲フラワーアレンジメントを体験できる生花店のブース

Point

- 地元ならではの職業を体験できるように各商店が体験ブースを企画
- キタザニアで働く体験をすることで、お給料として納涼夏まつりで使える金券がもらえる

PTA解散をきっかけに子ども部会を拡充、 保護者と力を合わせて子ども向け事業を展開

Point

- 子どもに関する活動とひとをまち協に集約
- PTAの公式LINEをまち協で継承、保護者とのつながりを継続して巻き込みに成功



◀本年度から復活を果たした「松っ子教室」

松が丘校区では、小学校PTAの解散に伴って、PTAで行ってきた取り組みやまち協の子ども向けの行事等を継承する形で、交流事業全般を扱ってきた子ども交流部会を「子ども部会」にリニューアルしました。

部会長は元PTA会長が就任、子どもや子育て世代に向けた取り組みが活性化しています。例えば、元PTA室を改装して交流スペースを開設。学用品などを扱うフリーマーケットなどを行っています。

また、ボランティアの高齢化等から休止していた放課後の居場所事業「松っ子教室」や体験イベント「松っ子まつり」も、子ども部会を中心に協力者募集の声をかけを行い、本年度復活を果たしました。特に「松っ子まつり」は「皆さんの協力があれば開催できます！」とPTA時代から活用していた公式LINEで保護者に呼びかけ、運営に必要な20人のサポーターが集まり今秋の開催が決まったそうです。

連合まち協レポート

自治会・町内会新会長研修会を開催

明石市連合まちづくり協議会の自治会部会では、新たに自治会長・町内会長になられた方を対象に、毎年研修会を開催しています。意見交換の時間では、「管理組合と自治会のちがい」や「清掃活動などの一部外注」、「役員への報酬」に加え、「自治会脱退者の増加」や「ゴミステーションの管理」など様々な話が交わされました。参加者からは「新任してあれこれ経験してきたことが他の自治会でも悩み、困っておられることなんだと思い、気が楽になりました」などの声がありました。

【日程】 2026年6月6日(土)
【場所】 明石市立勤労福祉会館

新会長
96名
参加

